

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (学校法人 光華女子学園)

1. テーマ

* 教員の専門性と指導力の向上 * 自己理解と適性進路実現を目指した「気づきサロン」の効果的な運用
--

2. 問題意識・提案背景

本校は、落ち着いた女子校ということで、軽度発達障害の可能性のある生徒の入学が最近増加している。小中学校時代から集団生活が苦手、ざわついた環境がしんどい、また二次障害等で不登校傾向の生徒が在籍する。また過去 3 年間の取組を発表する中で、中学校側から相談を受けることも増えてきた。 私立高等学校での支援体制の整備状況は国公立高等学校や、小中学校に比べ大きな課題がある。そこで、学校の組織体制を整え教員の専門性と指導力の向上を図ると同時に、生徒が自己の特性理解をし、自己肯定感をもって適性に応じた進路実現を果たせる環境作りが必要であると考えた。こうした課題解決のために、「気づきサロン」を開設し、効果的な運用を研究することで、生徒の変容を図ることができると考えた。

3. 指定校について

指定校名：京都光華中学校											
	第1学年			第2学年				第3学年			
	生徒数		学級数	生徒数		学級数	生徒数		学級数		
通常の学級	44		2	46		2	47		2		
特別支援学級											
通級による指導 (対象者数)	5			6			6				
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	11	1	6		2	1	1		24

指定校名：京都光華高等学校									
学級数及び児童生徒数									
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	182	5	206	6	165	6		

	××科									
定時制	△△科									
教職員数										
校長(副)	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	相談教諭	スクールカウンセラー	その他	計
2	1	33	1	14	1	5	1	1	1	60

4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校段階で早期実態把握による支援と高校へのスムーズな支援連携 ・ 生徒の「困り感」を見逃さず、早期支援の組織体制の確立と教員の専門性向上 ・ 自己理解と適性進路実現のための方策（気づきサロンと教員との連携の在り方） <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人や保護者からの相談と「気づきサロン」での状況把握 ・ 小中学校の入学前での情報交換 ・ 学級担任、教科担任、クラブ担当、保健室等々からの状況把握のために「気づきのシート」を活用し、支援コーディネータに報告するシステムの構築 ・ 支援員の入り込み指導から実態報告 ・ 公開授業時等での相互授業見学时における生徒の実態把握 <p>③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <p>* 授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教科全教員で授業のユニバーサル化の徹底と ICT（電子黒板・書画カメラ・ipad 等）の有効活用 ・ 「困り感」のある生徒の支援や授業中での生徒観察を行うため入り込み指導（支援員）を行い、校内委員会や個別教員との情報交換により支援方法を探る。 （事前学習の補助・ノートテイキング指導・授業中の理解度確認や声かけ・板書記録の補助） ・ 答案用紙やノートの確認や小テストの状況等から生徒の困りを探り「気づきサロン」への導きで、自己理解とともに学習方法を構築していく。 ・ 行事や日常の教室移動やグループワーク時の様子から状況把握を行い、個別面談や支援員との連携で SST の実施 <p>* 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での入り込みで個別指導が必要と思われる生徒に対して「放課後学び教室」を実施（授業ノートの整理・授業の復習・ipad 活用【目の体操ドリル・熟語トランプ・授業本文の聞き取り・漢字トランプ・ラッシュアワー・立体パズル・イコールカード・ノイ等】の活用で楽しみながら苦手克服と意欲向上） ・ 個々の苦手分野の克服や次の授業に参加しやすいように、授業の流れを確認し、安心感をもたせるようにする。 <p>④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を継続する中で、生徒の反応、保護者とのやりとりで満足度を測る。 ・ スクールカウンセラーや運営指導委員の先生方からの指導助言を活かした支援方

法を探る。

- ・不登校傾向に陥る生徒や登校はするものの授業に入りにくい生徒には、別室や個別学習スペースを活用し、カウンセリングとともに学習支援をする中で、教室復帰や登校状況で取組を評価（不登校・転退学者経年変化）

* 入り込み・「放課後学び教室」担当支援員（2名）「気づきサロン」担当（2名）
ICT 担当（1名）授業改善支援（1名）対話型授業助言担当（1名）

5. 主な成果

- ・生徒の困り感を見逃さないように教員が敏感になり、学校組織体制が確立した。
- ・教科や場面により、生徒の困り感が違うということに教員が気づいた。（「気づきのシート」の活用と調査の実施）
- ・授業のUD化の意識向上がみられた。（成果：教室環境・助け合い協力する雰囲気・見通し・板書や具体的提示等）
- ・全教科、教員で「わかりやすい授業」「ICTの効果的な活用」「言語活動の工夫」「対話型授業→アクティブラーニング」等、要支援生徒を念頭においた授業の組み立てができるようになった。
- ・「気づきサロン」において自己理解、また生徒相互の関係性に顕著な効果があらわれた。（特に専門家と教員との連携・生徒相互での支援での安心感向上）
- ・別室登校等「多様な学びの場」づくりや個別支援により、教室復帰できる生徒の数が増加したとともに、登校しにくい生徒の数が減少した。
- ・教員研修（伝達研修の定例化を含む）の充実と研究図書を通じた報告により、教員の専門性と意識の向上が見られた。

6. 今後の課題と対応

- ・「放課後学び教室」での学びと教科担任との連携
- ・個別指導（特に読み上げテスト等）合理的配慮の提供と学習評価につなげるための共通認識とシステムの構築
- ・授業のUD化アンケートの課題（小さな成果を評価できる方法・1文1動詞を意識した話し方・重要事項の個別徹底・板書しながらの説明等）
- ・教員による効果的なSST実施
- ・教員の時間的負担増の解消
- ・精神的な症状が見られる生徒とその保護者への対応と医療機関との連携
- ・進級卒業認定へ向けての支援と社会的自立

7. 問い合わせ先

- 組織名：学校法人 光華女子学園
- (1) 担当部署 京都光華中学高等学校
 - (2) 所在地 京都府京都市右京区西京極野田町 39
 - (3) 電話番号 075-325-5223
 - (4) FAX 番号 075-311-6103
 - (5) メールアドレス Rh092@mail.koka.ac.jp

